

平成 30(2018)年 6 月 13 日 配信
[本リリース発信元]ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)
広報担当:松本、長野
TEL:075-771-6051(9:00~17:00) FAX:075-746-3366
E-mail:press@rohmtheatrekkyoto.jp

報道関係者各位

京都岡崎音楽祭 2018 OKAZAKI LOOPS
タンブッコ・パーカッション・アンサンブル
コンサート&ワークショップ
ご取材のご案内



<コンサート>

2018年6月23日(土)~24日(日)
ロームシアター京都 ノースホール

<ワークショップ>

2018年6月19日(火)~21日(木)
京都市立錦林小学校

4人の傑出したメキシコ人打楽器奏者により結成 完璧な名人芸と芸術性豊かな、見て聴いて楽しいパフォーマンスが魅力

世界が注目するメキシコのパーカッション・アンサンブル「タンブッコ」が京都初登場！
ロームシアター京都を中心とした文化ゾーン岡崎地域で繰り広げられる、京都岡崎音楽祭
2018「OKAZAKI LOOPS」の企画の一つとしてコンサートを開催します。
ホールでのコンサートのほか、岡崎地域にある京都市立錦林小学校の生徒を対象とした事前の
ワークショップも行います。
今回の来日は京都公演のみですので、どうぞご注目ください！

<コンサート開催概要>

【公演名】京都岡崎音楽祭 2018 OKAZAKI LOOPS

タンブッコ・パーカッション・アンサンブル コンサート

【日時】6/23(土)・24(日) 両日 13:00 開演予定(約1時間半)

【会場】ロームシアター京都 ノースホール

【料金】全席自由 一般 2,000円 高校生以下 1,000円 ◎4歳以上入場

【予定曲目】

C.グリフィン:過去の化学作用の持続

P.バーカー:石の歌、石の踊り

R.トゥドン:風のリズム構造

S.ライヒ:マレット・クアルテット

H.インファンソン:エマトフォニア(あざのできる音楽)

A.プリンガス:バランコ

【チケット取扱】

◆ロームシアター京都オンラインチケット(要事前登録・無料)

<https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>

◆ロームシアター京都チケットカウンター(窓口・電話) TEL.075-746-3201

(10:00~19:00、年中無休)

◆京都コンサートホールチケットカウンター(窓口・電話) TEL.075-711-3231

(10:00~17:00、第1・3月曜休※祝日の場合は翌日)

コンサートのお問合せ:ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

<ワークショップ概要>

【日時】6/19(火)・20(水)・21(木) 各日 15:45~17:00(約1時間15分)

【会場】京都市立錦林小学校

【対象】錦林小学校 3年生~6年生(各日約20名/合計65名参加予定)

【内容】身のまわりにある素材を使って、いくつかの音のグループに分かれ、
さまざまな音を発見しながら、タンブッコと一緒に演奏をしてみます。
コンサート当日に来場できる子どもたちには、ワークショップの中で決めた
楽器を持参し、当日演奏に参加してもらう曲を1曲予定しています。

※同内容のワークショップを3日間行います

主催:京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

タンブッコのわくわく 〈テキスト:青澤隆明(音楽評論)〉

タンブッコの音楽は、いいにおいがする。とても自然で、懐かしく、耳にやさしく、しかも不思議なくらい楽しく、めくるめく変化を生み出す。打楽器の響きが空気になったり、水になったり、風になったり、木や葉を揺らしたり、土埃を舞わせたりしながら、生まれたての自由のような顔をして微笑んでいる。メキシコの4人はひとりひとり名手であり、アンサンブル全体でひとつでもある。しごく当然のことで、自然な世界はそのようにできていて、調和と緊張の間を行ったり来たりしながら、歌ったり舞い踊ったりしている。

タンブッコの奏でる曲の大半は新しく書かれた現代の音楽、それから少し昔の曲の彼らのためのアレンジ。けれど、「現代音楽」という言葉が誘う難解さは、技巧や構築は高度に知的であるにせよ、タンブッコの織りなす響きのなかでは、とても有機的に素材の自然さと溶け合っている。木と金属の音が、すべてを包み込むようにして、人智の工作を再び大きな自然の環のなかへと響き合わせるのだと言ってもいい。

そう、大地のにおい、である。昨年のツアー中に日本で録音された彼らの最新アルバムの名で、コエーリオの曲のタイトルからきている。メキシコの同時代やライヒ、ラヴェルのマリimba版もいっしょに収められているが、タンブッコが叩けば、今世紀も20世紀も太古の時間もひと続きだ。

いろいろな音楽を聴いてきた大人たちはもちろんだが、今回ワークショップに参加もできる小学生にも、音楽なんてふだんは聴かないよという方々にも、彼らの音楽は直接的に訴えかけ、いつのまにかそうしたみんなを包み込んでいだろう。これはちょっとすごいことだ。もともと音楽は歌と踊りからきているはずで、タンブッコの演奏はそのどちらにもあたりまえのように親しく通じている。

ところで、「タンブッコ」という心地よい響きの名前は、メキシコの大作曲家チャベスの作品名から採られた。地名だったり、出発点という意味もあったりするらしいが、どうであれ、わくわくの始まるどころならそれでいい。25年の長きにわたる活動を通じて、タンブッコがいつも新しい驚きを運んでくることに変わりはないのだから。



過去の共演公演より ©青柳聡



〈プロフィール〉

タンブッコ・パーカッション・アンサンブル Tumbuco Percussion Ensemble

メンバー:リカルド・ガヤルド(芸術監督)、アルフレッド・布林ガス、ミゲル・ゴンザレス、ラウル・トゥドン

1993年、傑出したメキシコ人打楽器奏者により結成。数々の公演とレコーディングを通し、打楽器の地平を拓く膨大なレパートリーを展開。最優秀クラシックアルバム賞を含むグラミー賞への4回のノミネート。多彩で複雑な打楽器作品、実験的前衛音楽と、広く柔軟なレパートリーを持つ。完璧なまでの名人芸と芸術性豊かなパフォーマンスが魅力の1つ。世界各地で演奏。日本での活躍については、2011年国際交流基金賞を受賞。2013年に日本人の若手作曲家とともに新作を創出、来日ツアーを展開。NHK-FM「現代の音楽」「題名のない音楽会」に登場。最近の来日ツアーでは、ガムランアンサンブルと共演し「カフェ・ジェゴグ」を世界初演、CDを2016年にリリース。ライヒ「マレット・クアルテット」を含むCDを2018年4月に発表。